

神在祭が執り行われる神社

出雲市内では、出雲大社の他3社で神在祭が執り行われます。万九千神社では、参集された神々が最後にお立ち寄りになり、この地から帰路につかれると言われています。



5 朝山神社

あさやま
出雲市朝山町1404
TEL.0853-48-0201 (朝山コミュニティセンター)

神在祭 11月9日(月)～11月18日(水)
《旧暦10月1日～10日》





6 日御碕神社

ひのみさき
出雲市大社町日御碕455
TEL.0853-54-5261

神在祭 11月19日(木)～11月25日(水)
《旧暦10月11日～17日》





7 万九千神社

まんくせん
出雲市斐川町併川258
TEL.0853-72-9412

神在祭 11月25日(水)～12月4日(金)
《旧暦10月17日～26日》



日本 出雲 日が沈む聖地 出雲
遺産 神が創り出した地の夕日を巡る

《ストーリー概要》
島根半島西端の海岸線は、出雲神話の舞台となった「稲佐の浜」と「日御碕」の名で親しまれる夕日の絶景地。この場所には全国的に名の知れた「出雲大社」と「日御碕神社」が鎮座していますが、それぞれが「天日隅宮」と「日沉宮」という名を持つ。夕日に縁の深いお社であることはあまり知られていません。古代、大和の北西にある出雲は「日が沈む聖地」として認識され、特に出雲の人々は、夕日を神聖視し、畏敬の念を抱いていたと考えられます。海に沈むこの地の美しい夕日は、日が沈む聖地出雲の祈りの歴史を語り継いでいます。

ご当地情報

ぜんざいの発祥
神在祭のとき、出雲では「神在餅(じんざいもち)」を振舞っていました。「じんざい」が出雲弁で「ずんざい」、さらには「ぜんざい」と訛って、京都に伝わったと言われています。ぜんざい発祥の地が出雲であることは、江戸初期の文献「祇園物語」にも記されています。

竹筒でおもてなし
大社地域では、古くから、毎月1日の早朝に稲佐の浜で竹筒に海水を汲んで清め払う「潮汲み」の風習が行われています。神迎の道では、この竹筒に季節の花を生けて玄関先に飾るおもてなしをしています。

お忌みさん
神在祭の期間、神々の会議を邪魔しないようにと、建築や土木工事、歌舞音楽はもとより、掃除や爪切りまでも遠慮し、忌み慣む風習がありました。そこで、神在祭は、別名「お忌みさん」と言われます。神門通りでも、神迎祭などの時間には、静かにお客様をもてなすお店があります。



出雲の観光情報は
こちらから

詳しい情報は <https://www.city.izumo.shimane.jp/>
出雲市のホームページ

神在月文化振興月間 のバナーをクリック。

〒693-8530
島根県出雲市今市町70 出雲市縁結び定住課
TEL 0853-21-6771

令和八年版



神在月 出雲
島根県出雲市縁結び定住課
TEL 0853-21-6771

「出雲大社 御本殿」
題字は世界的に活躍する
「祈りの書家」金澤翔子さんの書です。

出雲大社の神在祭

神在月の旧暦10月10日の夜、【1 稲佐の浜】には、八百万の神々を迎える御神火が焚かれ、龍蛇神(海蛇)を神々の先導役として神迎えが行われます。
神事が終わると、神籬(大神に細長い幣をつけたもの)に宿られた八百万の神々を、出雲大社へご案内します。
神々は、大社に滞在する7日間、出雲大社境内の東西にある【3 十九社】で宿泊され、【4 上宮(仮宮)】で神議(会議)されると言われています。

令和八年 神在月神事日程

- 《旧暦10月10日の夜》
11月18日(水) 「神迎神事」【於：1 稲佐の浜】
「神迎祭」【於：2 出雲大社】
- 《旧暦10月11日》
11月19日(木) 「神在祭」【於：2 出雲大社】
- 《旧暦10月15日》
11月23日(月) 「献穀祭・神在祭・縁結大祭」
【於：2 出雲大社】
- 《旧暦10月17日》
11月25日(水) 「神在祭・縁結大祭」【於：2 出雲大社】
「神等去出祭」【於：2 出雲大社】
- 《旧暦10月26日》
12月4日(金) 「第二神等去出祭」【於：2 出雲大社】

※神等去出祭とは、神々をお見送りする神事です。一度目は出雲大社から、二度目は出雲の国から神々が出発される際に執り行われます。

旧暦10月10日、全国からお越しになった八百万の神々を、出雲大社の西にある浜でお迎えます。「国譲り」や「国引き」の神話の舞台となった砂浜は、日本の渚・百選にも選ばれており、夕刻には、日本海に沈む夕日を見に多くの人々が訪れます。日本遺産「日が沈む聖地出雲」のストーリーの中でも中心となる場所です。

ご祭神は、「因幡(いなば)の白兎」の主人公「だいこくさま」の愛称で知られる大国主大神(おおくにぬしのおおかみ)。平成31年3月には、平成20年から始まった60年に一度の大事業「平成の大遷宮」が完遂しました。

神在祭の期間、全国の神々は出雲大社本殿の東西にある「十九社」にご宿泊されます。神々が滞在される1週間は、このお社のすべての扉が開かれます。

素戔鳴尊(すさのおのみこと)と八百萬神がご祭神である
出雲大社の摂社。
神在祭の期間中、全国の神々は上宮で、様々なご縁につ
いて神議(かむはかり:会議)をされます。

[illegible]

1 稲佐の浜



2 出雲大社（本殿）



3 十九社



4 上宮(仮宮)

ご祭神は、真玉著玉之邑日女命(またまつくたまのむらひめのみこと)。清らかな森の空気と清流で心洗われる標高170mの山頂付近に鎮座しています。

全国の神々が出雲に参集された際に、まずこのお社に立ち寄ってから神議をし、出雲大社へ向かわれるという伝承があります。

天照大御神(あまてらすおおみかみ)をご祭神とする「日
沉宮」(ひしずみのみや)と、素盞鳴尊(すさのおのみこと)を
ご祭神とする「神の宮」からなり、両社を総称して日御碕神
社といいます。うち14棟と鳥居、石灯籠は国の重要文化財に
指定されています。

青い日本海と緑の松林を背景とした「朱の神殿」は、鮮や
かさを際立たせ、さながら竜宮城のたたずまいを見せます。

櫛御気奴命(くしみけぬのみこと)、大穴牟遲命(おおなむちのみこと)、少彦名命(すくなひこのみこと)の三柱と八百万神がご祭神。

神在月に参集された神々は、出雲路の最後にこの社へ立ち寄り、会議の締めくくりと直会(なおらい)と呼ぶ宴を催したのち、明年の再会を期して各地への帰路に就かれると言います。旧暦10月26日夕刻の神等去出祭には、神々と人々の前途を祓い清める当地独特の湯立神楽も舞い奏でられます。

参集された神々が全国へお帰りになることを、「神等去出（からさで）」と呼びます。また、神々が神議を締めくくり、直会をして旅立つとされる「万九千神社」の近くでは、「神立（かんだち）」が地名となり、橋名にもなっています。